

2022 年度 部局 FD 活動報告

農学部・研究科

<p>1. 各部局の FD の検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科・専攻の会議にて、研究科教育運営委員が主体となって FD 活動を実施した。 学部・研究科の教員および学生を対象としたセミナーは農学セミナーとし、周知した。 学外および学内を対象としたオンラインセミナー農学部リポーンを開催した。 		
<p>2. 教育改善・教育評価・FD に関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催</p>		
開催日	内容（タイトル）	参加者数(教員)
4月26日(火)	農学セミナー1（植物色素の生合成に関する研究/佐々木伸大・公立大）	48(24)
4月26日(火)	農学セミナー2（野外トランスクリプトームデータを利用したコムギ黒さび病の診断と発生調査/津島綾子・公立大）	50(25)
5月20日(金)	農学部リポーン1（植物ウイルスを利用したワクチン生産/望月知史・公立大、宇宙農業に求められる微生物機能/遠藤良輔・公立大、食品加工残渣(廃棄物)は有用物質の宝庫/阪本龍司・公立大）	90(20)
6月17日(金)	農学部リポーン2（生活習慣病を予防する機能性食品因子/原田直樹・公立大、都市にある緑地は人を健康にするのか/大塚芳嵩・公立大、細胞内の温度を測る/稲田のりこ・公立大）	84(20)
7月22日(金)	農学部リポーン3（都市近郊の里山の保全と活用/上田 萌子・公立大、都市でのスマート農業への挑戦/横井修司・公立大、微生物の力で絶滅に瀕したサンゴを守る/三浦夏子・公立大）	70(10)
8月9日(火)	農学セミナー3(植物の陸上化と免疫システムの進化/中神弘史・マックスプランク研究所)	22(10)
10月11日(火)	農学セミナー4（ストリゴラクトン生合成酵素に関する研究/若林孝俊・公立大特任研究員）	25(10)
11月22日(火)	農学セミナー5（Coordinated Na ⁺ extrusion and long-distance transport in plant/ Dae-Jin Yun・建国大学）	40(15)
<p>3. 教育改善・教育評価・FD に関する会議、委員会等の開催</p>		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数

<p>応用生物科学科/専攻 会議</p>	<p>7月29日 博士学位審査基準についての検討 9月30日 大学院科目の成績評価基準についての検討 10月28日 大学院科目の開講期についての検討 2月14日 大学院の副指導教員制度についての検討</p>	<p>23</p>
<p>応用生物科学科 2 年 前期学生実験担当者 会議</p>	<p>第1回2月17日 実験内容の見直しと講義科目との連携 方法の検討</p>	<p>7</p>
<p>生命機能化学科/専攻 教授会</p>	<p>第1回6月8日 新入生に関する教育についての検討 第2回6月13日 専攻学生教育に関する検討 第3回9月15日 専攻学生教育に関する情報交換 第4回10月3日 効率的な教員配置に関する検討 第5回11月24日 効率的な教員配置に関する情報共有 第6回1月4日 効率的な教員配置に関する検討 第7回3月1日 専攻学生教育に関する検討</p>	<p>9</p>
<p>生命機能化学科/専攻 学生実験担当者会議</p>	<p>第1回8月18日 TAの有効な配置に関する検討 第2回2月20日 TAの有効な配置に関する検討</p>	<p>11</p>
<p>緑地環境科学類実習 演習検討WG</p>	<p>4月1～5日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習入門 A）の実習書の作成 4月1～11日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習入門 A）の実施方針の精査 5月9～16日 宿泊を伴う実習（緑地環境科学実習演習 IIA）の実施方針の検討 6月1日 実習演習WG（対面実施）の開催（実習科目の評 価基準の検討と意思統一、旧カリキュラムと新カリキュラム との連携・接続に関する検討） 6月3～20日 実習内容の高度化と効率化を図るための機器 整備計画の立案 6月29日～7月2日 実習科目における受益者負担の検討 7月14～29日 生物学実験（新カリ）実施における課題の 検討 8月5～31日 2023年度TA配置計画の検討 8月8日～9月26日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習 入門B）の実習書の作成 8月19日～9月1日 シラバスチェック結果への対応検討 （および新カリキュラムに伴う新規実習科目の実施状況の精 査） 9月16～30日 実習内容の高度化と効率化を図るための機 器整備計画の検討（2023年度新規・重点予算要求） 11月4日～12月26日 実習科目の代表教員および担 当教員の配置検討</p>	<p>各回10</p>

農学部教務委員会	第1回（6月3日）成績評価ガイドライン等の策定について 第2回（6月27日）追試験対応について、他 第3回（10月12日）2023年度時間割の検討について、他 第4回（1月10日）2023年度農学部要覧（案）について、他	8
農学研究科教務委員会	第1回（6月3日）成績評価ガイドライン等の策定について 第2回（6月28日）追試験対応について、他 第3回（10月12日）2023年度時間割の検討について、他 第4回（1月10日）2023年度農学研究科要覧（案）について、他	8
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績 GP 分布関連は次項に）		
<ul style="list-style-type: none"> ・応用生物科学科では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物病理学（受講者 66 名、ほぼ毎回実施、回答数 733/858 回収率 85%） ・生命機能化学科では、複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。 ・緑地環境科学類では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物形態分類学（回答数 55/63、回収率 87%）、緑地環境科学実習演習（回答数 51/54 件、回収率 94%）、水理学（受講者 52 名、授業毎に実施したアンケートの平均回答率 94%、講義全体に対するアンケートの回答率 69%）、水環境管理学（受講者 21 名、授業毎に実施、平均回答率 94%）、緑地環境科学実習演習入門 B（受講者 53 名、一部の授業で実施、平均回答率 92%）、生態環境計測学（回答数 42/42 名、回答率 100%） 		
5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄（必ずご記入ください）		
<ul style="list-style-type: none"> ・応用生物科学科/専攻: 2023 年 1 月 27 日に開催した学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で、AA 比率が高い科目が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。授業振り返りも合わせて活用すること、授業外学習時間を増加させる努力を行うことも申し合わせた。 ・生命機能化学科/専攻: 2023 年 2 月 1 日開催の学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で、AA 比率が高い科目が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。 ・緑地環境科学科/専攻: 2023 年 1 月 27 日に開催した学科/専攻会議で GPC の集計結果について報告があり、偏りが大きい科目について検討した。授業外学習時間が短い一方で GPC が高い場合は改善が必要との指摘があり、学科内で情報共有と意見交換を行った。 		
6. 年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 [実数]（必ずご記入ください）		
<ul style="list-style-type: none"> ・年に 1 回以上、FD 活動に参加した専任教員の人数 （ 68 ）人 ・所属内の専任教員の人数 （ 68 ）人 		
7. その他、追記事項		

- ・ 高等教育研究開発センター会議への出席（平井規央教授・月1回）
- ・ 「大学教育だより」のVoice企画、「商学部と農学部の学生交流と座談会」（9/21）の運営に参加（平井規央教授）
- ・ アクセシビリティ支援委員会会議への出席（稲田のりこ教授・2022年中9回）